ペシャワール会
PESHAWAR-KAI

ペシャワール会事務局

住所　〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号
電話　092-731-2372　FAX 092-731-2373
E メール　peshawar@kkh.biglobe.ne.jp
ホームページ　http://wwwla.biglobe.ne.jp/peshawar/
郵便物送付先　〒810-0001福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付
郵便払込口座　01790-7-6559　加入者名　ペシャワール会

【会長】後藤 哲也　【事務局長】村上 優　【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているＮＧＯです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

＊会員の方には、現地の活動等の報告記事を載せた会報を年４回お送りしております。

Peshawar-kai
ペシャワール会報 No.83

年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

（会計年度は4月1日～翌年3月31日）

＊会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座番号　01790-7-6559

加入者名　ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっております。未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。
（＊古切手は扱っておりません）

2006.03

◎中村哲医師の本◎

『空爆と「復興」』
—アフガン最前線報告
(石風社　2004年刊)

9・11事件から2年余、アフガニスタンで活動を続ける中村医師の発言、そして現地日本人スタッフからの鬼気迫るｅメール報告数百通を収録。

『ペシャワールにて』(石風社　1989年刊)
『ダラエ・ヌールへの道』(石風社　1992年刊)
『アフガニスタンの診療所から』(筑摩書房　1993年刊)
『医は国境を越えて』(石風社　1999年刊)
『医者井戸を掘る　アフガン旱魃との闘い』(石風社　2001年刊)
『ほんとうのアフガニスタン』(光文社　2002年刊)
『辺境で診る辺境から見る』(石風社　2003年刊)
『医者よ信念はいらないまず命を救え』(羊土社　2003年刊)
『中村　哲さん講演録　「平和の井戸を掘る」
　アフガニスタンからの報告』(編集・発行：ピースウォーク京都)
『アフガニスタンの診療所から』(筑摩文庫　2005年刊)

＊　＊　＊　＊　＊　＊

福元満治著
『伏流の思考　私のアフガン・ノート』(石風社　2004年刊)

丸山直樹著
『ドクター・サーブ　中村 哲の１５年』(石風社　2000年刊)
『アフガン乾いた大地　戦火の中の民』(NHK出版　2001年刊)

◆ご購入については、書店又は各出版社に直接お問い合せください◆
石風社　(092) 714-4838

中村 哲　なかむら てつ
ペシャワール会現地代表。PMS総院長。
1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒業。国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。らい(ハンセン病)を中心としたアフガン難民の診療に携わり現在に至る。

◆事務局から◆
事務局は福岡にあります。約20人のボランティアと１人の専従が活動しています。寄付された方へのお礼状書き、会報の発送、広報活動、現地ワーカーの送り出し等を行っています。お手伝いできる方を募集していますので、ぜひ事務局へご連絡下さい。例会は水曜日に行っています。

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているＮＧＯです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

＊会員の方には、現地の活動等の報告記事を載せた会報を年４回お送りしております。

年会費

学生会員	1,000円より
一般会員	3,000円より
維持会員	10,000円より
団体会員	30,000円より

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)
＊会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座番号　01790-7-6559
加入者名　ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出しください。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間数百万円以上かかっております。未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。
(＊古切手は扱っておりません)

2006.03

ペシャワール会
PESHAWAR-KAI

ペシャワール会事務局
住所　〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル603号
電話　092-731-2372　FAX 092-731-2373
Ｅ メール　peshawar@kkh.biglobe.ne.jp
ホームページ　http://wwwla.biglobe.ne.jp/peshawar/
郵便物送付先　〒810-0001福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付
郵便払込口座　01790-7-6559　加入者名　ペシャワール会

【会長】後藤 哲也　【事務局長】村上 優　【現地代表】中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

誰もが行きたがらない所、誰もがやりたがらないことにこそ真のニーズがある

ペシャワール会のあゆみ

ペシャワール会は中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され1984年より現地活動を開始しました。

1984年、中村医師はパキスタンのペシャワール・ミッション病院に赴任し、まともな医療器具も手術施設もない医療環境の下で、10年間、治療活動を続けました。

パキスタン北西辺境州及び
アフガニスタン国内事業全体図

1986年よりアフガン難民への国内診療を開始し、更に、アフガニスタンにも活動範囲を広げ、1991年12月、アフガニスタン国内の活動拠点としてダラエ・ヌールに最初の診療所を開設しました。以来、アフガニスタン北東部の３診療所を中心に、山岳無医村での医療活動を始めました。

1993年、ダラエ・ヌールで悪性マラリアが大流行し、治療薬の資金を確保するため、大々的な募金活動を展開しました。全国から2000万円以上の寄付が寄せられ、2万人もの患者の命が救われました。

1998年には恒久的な基地病院としてＰＭＳ（ペシャワール会医療サービス）病院をペシャワールに建設しました。

PMS病院

2000年、大干ばつに見舞われたアフガニスタンの村々で水源確保事業を開始し、井戸の掘削を中心にカレーズ（伝統的な地下水路）の修復を図りました。

2001年10月には「アフガンいのちの基金」を設立し、空爆下、アフガニスタン国内避難民への緊急食糧配給を実施し、2002年2月までに15万人に配給しました。現在は、その基金をもとに、アフガニスタン東部で灌漑用水路建設を含む総合的農村復興事業「緑の大地計画」を進めています。

ソルフロッド郡での食糧配給

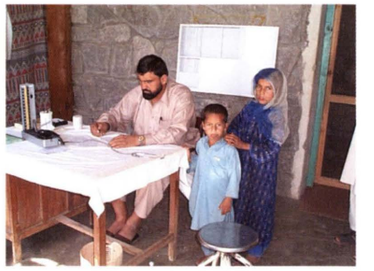
医療事業

ペシャワールのＰＭＳ病院（70床）を中心に、パキスタンに1カ所、アフガニスタンに１カ所の診療所（いずれも山岳地帯）を設け活動しています。

ハンセン病を柱とする医療活動を続けながら、アフガン難民はじめ貧困層の診療を行っています。

事業は治療にとどまらず、現地スタッフの医療教育も行っています。女性患者が医師（男性）にさえ肌を見せないイスラム的風習の中で、日本人女性看護師によるケアも行っています。

2005年1月には現地事情等により、ダラエ・ピーチ診療所、ワマ診療所をアフガニスタン政府に委譲しました。


ダラエ・ヌール診療所

PMS病院で検査中の医療スタッフ

○総診療数：約13万人（2004年度）
○医療事業スタッフ：75人　（2005年7月現在）

緑の大地計画

2000年7月からアフガニスタン国内の診療所で大干ばつによる水不足を原因として、赤痢患者が急増しました。

そこで、同年8月より、医療活動の一環としてアフガニスタン東部一帯で水源（井戸・カレーズ）確保事業を開始し、空爆下も休みなく続けてきました。

2002年1月に、「緑の大地」計画を発表、これまで継続してきた、医療活動、飲料水源確保に加え、灌漑用水の確保に力を尽くし、自給自足できる農村の回復によってアフガニスタンが復興されるよう、さらに長期的かつ大規模な事業を目指しています。

完成した井戸から水を汲む子供達

建設中のトルハムの給水塔

水利事業

農業に一番必要な水を確保するために、ダラエ・ヌール渓谷を皮切りにカレーズ（地下水路）の復旧が始められました。砂漠化した中流域で手がけた38ヶ所が復旧でき、それによって約1000家族（約1万人）が自分の村に帰ることができました。灌漑用井戸による灌漑も行っています。

水路脇に植樹した護岸用の柳も成長

2003年3月、水量の豊富なクナール水系の水を利用した灌漑用水確保15カ年計画がスタートし、全長14キロメートルの用水路建設を進めています。2004年3月より一部通水を開始し、2005年4月にはクズクナール地域50ヘクタールへの第一弾灌漑を開始しました。

灌漑が始まって農地が広がる

○作業地数：1472ヵ所、利用可能水源1342ヵ所（2005年4月現在）
○水利関係臨時雇用職員：134人、作業員650人（2005年7月現在）

農業計画

「自給自足が可能な農村」の回復のためのモデル地区として、ダラエ・ヌール渓谷を選びました。この地区は最も貧困な農村である上に、干ばつ被害で一時は18,000人の難民を出した所です。ここに地元の人の協力を得て試験農場（約8000㎡）を作りました。

乾燥に強い品種の作付け、土壌の改善などに力を尽くして生産量を上げるよう、また、ケシに代わる換金作物の研究、農業を軽視せぬ教育、農具の改良なども行なっています。

さらに、アフガニスタンでは乳製品が生活に不可欠であるため、総合的な家畜業の育成に力を入れています。

ダラエ・ヌールの試験農場で
収穫したサツマイモ

○農業・畜産関係：2人（2005年7月現在）

◆現地ワーカ募集◆
現在、日本人ワーカーが、パキスタンとアフガニスタンの医療、会計事務、水計画、農業などの部門で活動しています。
男性ワーカ（現地スタッフ管理業務）と男性看護師を募集します。
ボランティアで２年以上活動でき、日常英会話ができる方を希望します。詳細は事務局までお問い合わせください